

# 地域おこし協力隊通信

町で活躍する地域おこし協力隊員の日々の様子や取り組みを紹介！



タペノワ・グルデン  
(高校魅力化担当)

11月26日(金)に、長生クラブの研究修会でカザフスタンを紹介しました。最初はカザフスタンの歴史や環境、経済と産業、日本との関係、文化、伝統料理、国技、世界遺産、観光について発表しました。その後、質疑を行い、教育システムや食事文化のちがいなど、興味深い質問がたくさん出てきて、やりとりをしました。そして、ゼレ隊員が伝統楽器であるドムブラを弾いて、参加者の皆さんに生でカザフの楽器の音を聞いてもらいました。また、民族衣装を展示し、カザフ人の男性と女性が昔着ていた衣装について説明しました。皆さんはとても関心を持ち、興味があることがわかりました。

カザフスタンの紹介を行うことで、あまり良く知られてない国について町民の皆さんにもっと知ってもらえることができ、自分たちの国のことを広めることができたといい機会でした。また、カザフスタンの紹介だけではなく、町民の皆さんと交流する機会をいただきました。このような貴重な機会をいただき、とても嬉しかったです。

他にも、シルバー人材センターの研究修会では活動報告をしました。これからも皆さんとの交流をもっと深め、地域おこし協力隊員のことや活動内容を知らせていきたいです。また、国際交流もできれば良いと思います。



ベイセンバイ・ゼレ  
(高校魅力化担当)

10月11日(月)から18日(月)まで、カザフスタンで日本語を学ぶ大学生と、早稲田大学人間科学部の学生たちとの交流プログラムにTA(ティーチングアシスタント)として参加しました。

「地方創生を支えるICTと人間科学」をテーマに議論を行いました。そのためにグルデン隊員と、皆野町の課題を紹介しました。

その後、産業の活性化、観光の活性化、教育の活性化それぞれのグループに分かれ、一週間議論を深めました。私は、「産業の活性化・住民定着とICT」をテーマに、学生たちといっしょに調査しました。短い期間でしたが、学生たちは皆野町の移住相談の新しいウェブサイトを開発しま

した。また、移住や町の活性化につながる皆さんの意見やアイデアが出て、とてもいい交流でした。

産業、教育それぞれのグループでも、町の資源とICTの両方を活用した地方創生のアイデアを考えました。やはり、町のことを全く知らないかたがたの意見を聞くことはとても大切だと思いました。

今回学生たちが考えた意見を、これからの活動で活かしたいと思います。

